



今回は 第2回 アントロポスSEKIシンポジウム の報告です。

◇「自然とヒトの共生を考える」をテーマに、高校生と研究者が交流しました。

テーマ：「自然とヒトの共生を考える」

日時：令和元年12月15日(日) 13:00 ~ 16:00

場所：関高等学校彩雲館 1F 第1研修室・第2研修室 2F 大研修室

参加校：関高等学校 鶯谷高等学校 岐阜高等学校 武義高等学校

第一部 高校生による研究発表

関高校 「SEKI米粉倶楽部の活動」

岐阜高校 「アユの生態と冷水病」

武義高校・関高校 「長良川中流域及び支流のプラスチックごみ」

岐阜高校 「ヤマトサンショウウオの生態と保全」

鶯谷高校 「ヒダサンショウウオの生態と保全」

関高校 「熱帯雨林とフェアトレード」

第二部 討論 「自然とヒトの共生 ～様々な事例から考える～」

各校代表生徒 小森志保氏 (岐阜県農政部) 竹ノ下祐二氏 (中部学院大学)

野田岳仁氏 (法政大学) 谷口義則氏 (名城大学) 水野友有氏 (中部学院大学)

◇ 当日の様子・生徒の感想

高校生、教員、専門家、NPO、行政機関、地域住民。様々な立場からの参加者約60名が集まりました。

環境DNAやGISを用いた最先端の研究、地道な生態観察やフィールドワークの報告、地域と連携した課題解決型研究、授業時間を使った探究活動など、様々な活動報告が行われました。参加した高校生のひとりからは、以下のような感想が寄せられました。

今回のシンポジウムでは、同じように研究活動をしている高校生や先生方などと近い距離でお話ができ、思いがけないアドバイスや様々な意見を頂けたため、とても有意義な時間になりました。保全活動や研究活動を続けていく上で、私達だけの努力では生物たちを守ることは難しいですが、今回のような交流を続けていくことは多くの方が環境や生物に対して興味、理解を持ってもらえて環境保全にも繋がる大切なことだと改めて感じました。今回のことを生かし、今後も継続して活動を行っていきたいです。



試行錯誤の日でしたが、複数校・専門家の交流機会として貴重な体験となりました。